



初代は、昭和七年度に植栽され、昭和六三年度（五七年生）に伐採し、その伐根から萌芽した第二世代は、萌芽更新で成林している国内で最も歴史のある試験地で、平成二九年度に間伐を実施しました。

間伐後、萌芽した第三世代は今後、芽かき作業や種子採取等による苗の育成などについて検討して いきま

す。 沖長官から、早生樹コウヨウザンを含め、今後の造林樹種としての期待も話されました。ご苦労さまでした。

六月三日（土）に沖長野庁長官が来高され、四万十森林管理署管内の「コウヨウザン試験地」（辛川山国有林一七七一林班）を現地調査されました。

当日は雨天の中、野津山局長をはじめ職員とともに、コウヨウザンの第三世代の萌芽状況等を確認されました。（写真 沖長官は手前右）

萌芽力に早生樹として期待

沖長官がコウヨウザンを視察

## 6.9 公園の樹木に樹名板を

### 「公園が身近になった」

梅雨晴れの6月9日（日）、高知市横浜新町まちづくり市民会議が主催する「公園の樹木に名札を付けよう」に協力しました。

本行事は地域の蒔絵台（まきえだい）公園の樹木に名札（樹名板）を取り付ける行事で、身近な樹木を学びつつ、地域のコミュニケーションの醸成を図るものです。

当日は、約40名（子ども26名を含む）の地域の方々が参加しました。先ず、職員が公園内の樹木名や特徴等を説明。その後、



参加者は板に樹名・科名や葉の形などを描いて（写真）、公園の樹木に取り付けました。

作業を終えた参加者から「樹木に名札を付けたことで公園がもっと身近になった」との声が多く寄せられました。

### 編集後記

7月。盛夏の候に。

梅雨明けも間近。

暑さに対応した体調管理を。



### 「木のお酒」 って



木材から「木のお酒」を作る。

この記事が、林政ニュース580号（5月9日付）、高知新聞朝刊（6月21日付）に掲載されました。

開発したのは、国立研究開発法人森林総合研究所（茨城県つくば市）。

この技術は、木材に食品用の酵素と酵母を加えてアルコール発酵させるもの。

シラカバ（写真）、ソメイヨシノ、スギを使って試作したところ、樹木の種類毎に多彩な風味を出せる可能性があるとのこと。

今後、「木のお酒」を実用化するためには、食品衛生法に基づく基準などをクリアする必要性や食品製造施設を持っている企業との連携が必要。

「木のお酒」が誕生すると木材の新しい魅力の発見に加え、林業の活性化にもつながると期待が高まっています。

